

日ロWSロシア側開会挨拶

ベドリツキーロシア水理気象環境モニタリング庁長官挨拶
(副長官 Dr. Blinov 代読)

ここにお集まりの皆さんを心から歓迎し、またこのワークショップの成功をお祈りいたします。このワークショップ開催のアイディアは、モスクワで開かれた世界気候変動会議で、環境省の代表とロシア側との間で生まれました。それが今日、実現されることを嬉しく思います。

このセミナーは2国間の長期的な関係を築く第一歩となる重要な会議です。インベントリは気候変動問題の検討のベースとなり、共同実施プロジェクト成功の重要な条件ですから、情報交換を含め、我々の協力は重要です。

ロシアにおける GHG インベントリは 1987～1990 年の間に始まり、Gocomhydromet、及びロシア科学アカデミーなど、いくつかの研究所において学術的に行われました。

1994 年、ロシアは気候変動枠組条約を批准しました。このことにより、人為的活動による GHG の排出・吸収に関するインベントリの作成、そして、COP への提出する義務が課せられることになりました。各国には、国際的に比較可能なインベントリ作成の手法の導入が必要になり、最初の国際的なインベントリの作成手法が、IPCC で作られました。

1994 年、ロシア気候変動問題委員会が設立されました。Roshydromet は、この委員会のメンバーとして、国内インベントリ作成を含むロシアの国連義務遂行を調整している組織であります。

その後、1995 年には最初の国別報告書が発表されました。その中には、1990 年のインベントリデータが含まれ、さらに、国内でのインベントリのスキーム、各省庁の役割、省庁間の協力体制が明示されました。

次に重要なのは、国際的な共通の方法論に則りロシア独自のインベントリの方法論を作ることでした。ペレストロイカを通じて多くの企業が誕生し、各企業がそれぞれの方法で温室効果ガスを排出するようになったため、この排出量を明確にすることは難しいことでしたが、我々はその把握に当たって役割を果たしたと自信をもって言うことができます。

第 2 回目の報告書は、1990 年代のインベントリ報告に補足をし、1994 年のデータを加えました。1999 年に UNFCCC に 1995～1996 年のデータを提出しました。

2002 年に UNFCCC に提出された第 3 回目の報告書には、1997～1999 年のデータを盛り込み、また、新しく産業廃棄物由来の発生源についてもデータを

掲載しました。各年の排出吸収データが修正されました。一例として、ロシアの森林における CO₂ 排出吸収が明らかにされました。

第 3 回目の国内報告書は、現在、IPCC による審査の過程にあります。その後、2003 年から 2004 年の初めにかけて、2000～2001 年の部分的なインベントリの作成作業が行われ、引き続き IPCC Good Practice Guidelines の導入に必要なデータが集められました。

こうした活動を経て、ロシアでは、UNFCCC の要求をほぼ満たす、世界に対するロシアの義務が変化しても対応可能な GHG インベントリシステムが構築されました。政治的な決定による京都議定書の批准の際にも有効なものであると考えています。

ロシアのシステムの特徴として、国内全地域を網羅する国家及び各省庁の統計データを効率的に使っている点があげられます。重要なのは、このシステムが経済的にも優れている点です。

今後の発展の進むべき方向としては、次の点が重要になると思われます。このワークショップを通じて、さらなる具体的な方向が見えてくることでしょう。

- インベントリ作成の組織的体系をさらに明確にすること。
- 新しい手法の導入により、インベントリの作成期間が短くなること。
- UNFCCC の基準に則った形で、データの質を向上させること。
- 新しい、わかりやすい報告の仕方を導入すること。
- 専門家としての能力をさらに向上させること。

今日のワークショップがいかに重要であるかという点を強調しておきたいと思います。本日、このホールから始まる日口間の共同作業が今後、より早く、より有効に形となることが有用であると考えます。このワークショップは、UNFCCC の下で日口が共同で作業を行うことができるという証明となります。我々にとっても、日本側にとっても重要であり、今後の発展、繁栄に導くこととなるでしょう。